MIS での発表と医療情報の変遷

青木　仕
順天堂大学学術メディアセンター

[はじめに]

演者は、医学情報サービス研究大会(MIS)第 1 回(1984 年)東京都養育院大会から昨年の第 32 回(2015 年)北海道大学大会まで、32 年間継続して口頭発表を行っている。今回は、各研究大会の発表演題と医療情報学分野のトピックスやキーワードと共に 32 年間の医学図書館界での出来事を振り返る。そして、演者の 1 回から 32 回までの発表演題の分析を行う。

[方法]

第 1 回大会(1984 年)から 32 年間の医療情報学分野でのトピックスを抽出し年代別に提示し言及する。そして、演者の第 1 回から第 32 回の発表演題中のフリータームをテキスト・マイニングにより用語間の関係をマッピングし提示する。テキスト・マイニングには、トレンドサーチ 2015(社会情報サービス社)を使用し解析した。トレンドサーチのコンセプトマッピングは形態素解析の手法を採用し、関連度が高いタームは近くに、低いタームは離れて配置され作図される。

[結果]

32 年前に発足した MIS の開催地の実行委員会による MIS のプログラムの構成は、時代と共に新しい企画を加えて魅力ある内容になっていた。そして、医療情報学分野のトピックスと共に MIS の演題も変貌を遂げていた。演者が MIS へ発表した演題は、この 30 有余年の医学図書館界を反映したテーマであった。演題の内容は、その時代を反映した疾患の分析や図書館界のトピックス的なテーマを取り上げ、ビブリオメテリックスやテキスト・マイニングの手法で分析を行っていた。

[考察]

医学図書館の日常業務はデータベースの進歩や資料の電子化、EBM を代表する医療情報サービスの質的変容、患者図書サービス等の医療情報提供者の拡大など医学図書館を取り巻く環境は著しく変化してきた。演者の MIS への発表は、これらの時代を反映した演題・内容となっていた。研究手法は、データを可能な限り視覚化し提示していた。MIS は発足当時の趣旨である研究発表、生涯教育、情報交換の広場として、若いライブラリアンの皆さんに継承していただき、時代に即した研究テーマや研究手法を取り入れた発表がなされ、益々の発展を遂げていただくことを期待したい。

MIS は永遠に不滅です。

[参考文献]

小野寺夏生，城山泰彦．医学情報サービス研究大会(MIS)一般演題発表者 516 人のプロフィル：第 1 回から第 27 回までの全発表者の計量学的分析．医学図書館．2010;57(4):386-91.

青木　仕．医学図書館機能の変容．第 29 回医学情報サービス研究大会抄録集．東京．2012 年 8 月 25 日 P33.